

資料 1

【事業目標 1】琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介

- ・実施目標：琵琶湖やその周りの暮らしの価値を地域の人々や国内外の研究者とともに発見し、その魅力を国内外に広く発信します。
- ・評価指標：地域の人々や研究者など多くの人による琵琶湖や湖と人間の研究が発信される。

1-1. 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進

- ・5年間の事業：既存の研究プロジェクトのとりまとめと新しい複合分野の研究プロジェクトの立ち上げを進める。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	各年次報告書提出。	総合研究・基盤B研究の推進。 次期総合研究の検討開始。
2022	古代湖である琵琶湖の生い立ちと固有種の進化に関する新たな知見が蓄積（基盤 B）。	基盤 B 研究のとりまとめ。 総合研究の実施（継続）。 次期総合研究の内容・体制の検討。
2023	過去 150 年間の琵琶湖と人の関係の変化についての知見が蓄積。	総合研究の実施（継続）次期総合研究の内容・体制の検討。
2024	過去 150 年間の琵琶湖と人の関係の変化についての知見が蓄積に関する研究成果のとりまとめと公開。	総合研究の成果に基づく報告の作成と企画展示の実施。新次期総合研究の内容・体制の検討立ち上げ準備。
2025	過去 150 年間の琵琶湖と人の関係の変化についてのとりまとめ新総合研究と共同研究群による新たな取り組みの開始。	総合研究の成果に基づく企画展示の実施と成果とりまとめ、新総合研究の試行実施。

\*コメント：現在進めている総合研究のスケジュール変更と、その公表の場として企画展示を計画しており、その公表のスケジュールから、琵琶湖の価値を高める研究の推進の今期を現在の総合研究に注力する計画に特化した。

1-2. 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える

- ・5年間の事業：ウェブを中心とした新たな研究発信方法の構築とコンテンツの充実をはかる。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	リサーチマップの掲出と更新。 J-stage への研究調査報告掲載。	既存の枠組みでのウェブ発信。 J-stage への研究報告書掲載手続き。
2022	コンテンツ案策定。	ウェブ掲載コンテンツの検討。 J-stage への研究報告書を順次掲載（以後略）。
2023	論文解説の掲載開始。	論文解説ページの整備と掲載。 琵琶湖に関する紹介ページの内容検討。
2024	琵琶湖に関する紹介ページの掲載開始。	琵琶湖に関する紹介ページの整備。
2025	琵琶湖地域に関する研究成果が、順次発信される体制が構築されている。	新コンテンツの検討。

1-3. 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

・5年間の事業：耐用年数を超えたり故障した研究備品を更新し、共同利用を推進する。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	最新の備品更新計画策定。	備品更新計画の更新。 既存の施設備品による研究推進。
2022	微小生物の分類に関する体制が整う(電子顕微鏡)。 希少種保全施設としての整備が進む(共同研究)。 順次備品が更新される。	大型備品①電子顕微鏡の調達。生物多様性共同研究による希少種保全の施設環境整備。 DX 事業への参入挑戦。 その他備品類の予算要求への反映。
2023	さまざまな資料の内部を非破壊観察する体制が整う(軟 X 線検査装置)。 希少種保全の取り組み(生態観察池改良・孵化飼育設備改良)が進む(共同研究)。 先端デジタル技術を活かした研究手法が開発される(DX)。	大型備品②軟 X 線検査装置の調達。 生物多様性共同研究の実施。 DX 事業を活かした研究の実施。
2024	琵琶湖での観測体制継続(調査船)。 希少種保全の取り組み(生態観察池改良・孵化飼育設備改良)が進む(共同研究)。 DX 事業を活かした研究の成果が蓄積(DX)。 大型備品を利用した琵琶湖の共同研究の芽が生まれる。	大型備品調達計画の見直し(情報収集と導入順序の再検討)③調査船の更新。 生物多様性共同研究の実施。 DX 事業を活かした研究の実施。 大形備品の共同利用の推進。 <b>研究環境整備を重視した研究部予算の組み替え。</b>
2025	研究環境整備と共同研究の推進による研究の活性化。	大型備品②軟 X 線検査装置の調達。 新規備品等を活用した共同利用の推進。

\*コメント: 予算調達の問題から、大型備品の調達計画を再度見直す必要がでてきたことによる変更。

## 【事業目標2】資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

- ・実施目標：貴重な標本・資料を将来にわたって人々が利用できるよう、適切な整理・保管を進めるとともに、ICTを活用した利用方法の開発により、琵琶湖博物館の知的資源を「だれでも・どこでも・いつでも」使えるように整備します。
- ・評価指標：整った環境で保管されている湖と人間の資料・情報がどこからでも使えている。

### 2-1. 標本・資料の管理体制の強化

- ・5年間の事業：開館から25年が経過し収蔵庫の保管環境や作業環境が悪化しているため、計画的に改善を図るとともに、IPMによる管理体制を強化する。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	収蔵庫空間の設備の不具合の原因が把握できている。	収蔵庫空間の電気、空調、排水設備等の故障や老朽化の情報集約。 民俗収蔵庫1の雨漏りの原因究明と修繕。
2022	問題のある設備改修の予算申請の年次計画を立案。空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新がなされている。	収蔵庫空間の電気、空調、排水設備等の故障や老朽化の一斉点検。収蔵庫空調用冷水バルブ修理／蛍光灯の安定器故障による照明器具のLED改修予算の要求。
2023	収蔵庫空間のIPM体制の問題点が把握できている。改修工事により改善された環境。空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新がなされている。	IPM体制の問題点の情報集約。環境改善に向けた予算申請。積み残しの問題のある設備改修の予算申請。予算がついたものの改修工事。空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新。
2024	IPM体制が改善されている。改修工事により改善された環境。空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新がなされている。	環境改善に向けた予算申請。予算がついたものの改修工事。積み残しの問題のある設備改修の予算申請。IPM体制の改善案を検討。空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新。
2025	再構築されたIPMにより定期的な管理体制が確立している。改修工事により収蔵庫環境が安定している。空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新がなされている。	予算がついたものの改修工事。積み残しの問題のある設備改修の予算申請。収蔵庫環境の管理体制の構築。空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新。

\*コメント：館内設備に修繕が必要なものが多く、収蔵設備以外の修繕計画とも合わせて、予算獲得の問題もあることから、現状計画のとおりとした。

### 2-2. 標本・資料の整理の推進と公開による利用促進

- ・5年間の事業：従来より進めてきた収蔵品データベースへのデータ入力を引き続き行うとともに、画像データが付加されウェブ図鑑と連動したより魅力的なデータベースとなる。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	ウェブ公開データベースの充実に向けたデータ入力が進む。	緊急雇用による資料撮影と新規登録。
2022	ウェブ公開データベースの充実に向けたデータ入力が進む。	資料写真整理体制の検討。
2023	資料写真整理とデータベースへの登録が進む。 ウェブ公開のための体制が整備される。	資料写真整理体制の整備。 データベース編集作業、データベース画面デザイン、ウェブ図鑑との連携、博物館ウェブページとの調整。
2024	データベース運営における問題点の抽出と改善方法の検討。	データベース運営における問題点の検討。
2025	データベースがスムーズに運営されている。	データベース運営における問題点の改善。

\*コメント:2023 年度からデジタル情報整備事業の予算が獲得できたことから、その計画に合わせて現在は本事業を実施している。

### 2-3. ICT を利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出

・5年間の事業：リニューアル後の常設展示資料情報に対応したウェブ図鑑の公開を進める。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	写場の設備計画の立案。多面的な音声ガイド情報が公開。	写場の設備の現状把握。多面的な音声ガイド情報の整備。
2022	写場の設備更新が始まる。3D コンテンツを含むウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像情報(3D コンテンツを含む)の蓄積が進む。	写場の設備を更新。ウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像情報の蓄積。
2023	写場の設備が整えられている。リニューアル後の常設展示資料情報が整理されている。ウェブ図鑑の構築に向けた写真、動画、3D コンテンツの蓄積が進み、一部が公開される。	リニューアル後の常設展示資料情報の整理。
2024	リニューアル後の常設展示資料情報の公開方針が決定している。写真、動画、3D コンテンツの蓄積と、ウェブ図鑑としての公開が進む。	リニューアル後の常設展示資料情報の公開方針を策定する。ウェブ図鑑の構築に向けた写真、動画、3D コンテンツの蓄積。 ウェブ図鑑公開システムの追加公開。
2025	リニューアル後の常設展示資料情報と連携したウェブ図鑑の公開。	リニューアル後の常設展示資料情報の公開における問題点の改善。

\*コメント:2023 年度からデジタル情報整備事業の予算が獲得できたことから、その計画に合わせて現在は本事業を実施している。

### 【事業目標3】 みんなで学びあう博物館へ

- ・ **実施目標**：交流事業を知識や経験を交換し合う「学びあいの場」と位置づけ、さまざまな人々や組織と連携して充実を図るとともに、参加する人の相互の出会いが新たな活動につながる環境を創ります。
- ・ **評価指標**：利用者が実施者になった多様な交流事業が実施される学びあいの場で情報交換が行われる。

#### 3-1. 幅広いニーズに応える交流事業の充実

- ・ 5年間の事業：利用者との対話を通じて交流事業のニーズを確認しながらメニューの充実を図る。また、交流事業の実施者の多様化を促進する。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	琵琶湖博物館全体の交流事業の現状が把握される。	これまでの交流事業の実績を他の係の実施分も含めて整理し、現状を把握する。
2022	交流事業の充実のための計画や方針が策定される。	博物館が提供できる(すべき)交流事業の候補をリスト化し、さらにびわ博フェス等でニーズの確認を行う。その結果をもとに交流事業の充実のための方針を策定する。
2023	次年度以降の計画的なメニューの充実が進むとともに、実施者の多様化も進む。	交流事業の充実のため、はしかけ、外部団体等が主体となって実施するメニューの企画を実施内容に沿った担当学芸職員と相談しながら進める。継続的にニーズ調査を行う。
2024	多様な実施者によるメニューが試験的に行われ、課題が改善される。	びわ博フェス等を通じて試験的に行うはしかけ、外部団体等が主体となった体験型メニューの実施とその改善を行う。
2025	交流事業が充実するとともに、実施者も多様化する。	試験的に行ってきた外部団体等が主体となった交流事業の実施により、館内外の人びとと共に、5年間の交流事業の実践を検証する。

\*コメント: 現在、はしかけ等が主体となった交流事業はいくつか実施しているが、びわ博フェスの時にはさらに多様なプログラムを実施していることから、これらを通常提供する交流事業の中に位置づけることを検討していく計画を明確にした。

#### 3-2. 出会いの場の創出

- ・ 5年間の事業: フィールドレポーター制度やはしかけ制度およびそれらの出会い・発表の場であるびわ博フェスを基盤に、利用者層の多様性や連携性を高めることで目標を実現する。最初の5年間は団体・企業等の参入を促すため団体向けの「はしかけ制度」的なものを作る。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	登録制度の概要についての整理。	団体向け登録制度に関する情報収集。
2022	制度運営に必要な要項が整備される。	団体向け登録制度の詳細内容を検討し、要項を定める。

2023	びわ博フェスへの参画者層と実施者層の多様性が図られる。	登録制度を活用したびわ博フェスの実施を通じて、双方にとっての課題整理と制度の見直しを行う。
2024	多様な個人や <del>化した</del> 団体の参入により、新しいびわ博フェスの開催や交流事業における新たな連携や交流が進む。	現在の登録制度の見直しにより、改善された登録制度を通じて、 <del>カテゴリ別に増やした</del> 多様な個人や登録団体とともに企画・運営する、新しいびわ博フェスの運営と企画などを行う。
2025	多様な出会いの機会が増え、交流事業の新たな可能性を見出せる。	様々な個人と団体が博物館を利用して実施する交流活動や連携事業の機会を増やし、 <del>新しくなった</del> 新たな交流事業を試験的に行う場としてのびわ博フェスを中心に団体登録制度や運営の見直しを行う。

\*コメント:2022年度の計画にある団体向け登録制度の要項はできておらず、団体向け登録制度についてのサービス内容や当館と利用者双方にとっての利点などの整理が必要であることから、団体登録制度そのものの必要性に立ち返って再検討が必要であると考えた。

### 3-3. 「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援

- ・5年間の事業:「深く学ぶ力」による学習では体験が重視されるが、琵琶湖学習においては教師自身の「体験」の機会が少なく有効な教材を生み出しにくい問題がある。この問題を解消するため、研修によって教師自身の「体験」を支援する。

年度	達成する状態(目標)	進めること
2021	教師が「体験」的な教材を生み出すために役立つ研修の構築。	研修内容の見直しと試験的实施。 事前・事後・1年後アンケート効果測定と実践例収集。
2022	受講者の意識向上を指標に研修が改良される。	研修の見直しと試験的实施。事前・事後・1年後アンケート効果測定と実践例収集(以後、実施)。
2023	受講者自身が体験を重視した学習プログラムを展開できる。	学校現場の実態を把握しながら、受講者に助言を行う。
2024	受講者が自ら発案した体験学習プログラムに改良を加え実施し、他の教員と共有する。	過去3年間の受講者に対してアンケートの追調査を行い実態のさらなる把握と改善されたプログラムの実績を収集し、改善前のプログラムと比較検討を始める。
2025	体験的な教材を主体的に生み出すことができる受講者が増加し、他の教員も体験的学習プログラムを実施することができる。	受講者からの評価を受け、5年間の実践を検証する。

\*コメント:“教員による体験型研修プログラムの開発”がメインの計画ですが、琵琶湖博物館だけで完結しないで、興味ある教員や、場合によっては生徒にも関わってもらい、“体験型プログラムを考えるための研修”のプログラムを検討し、さらにその研修を教員以外の人にも手伝ってもらうような方向性を考えた。中長期の方針として、多様な人の関わり、ということを意識した。

#### 【事業目標4】もっと使いやすい博物館へ

- ・実施目標：琵琶湖を知る「入口」としての展示を、より使いやすく、常に成長する展示として発展させます。
- ・評価指標：湖と人間の最新情報が常に得られ現場への興味をもつ人々が増える。

##### 4-1. 誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長

- ・5年間の事業：視覚障害者と外国語使用者への対応として音声ガイドを導入したが、その性能上、一部の展示しかカバーできていない。最初の5年間はこの問題に取り組むこととし、可能な限り多くの展示へのアクセシビリティを確保するため、新たなICT技術を用いたガイド手法を導入する。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	採用する手法の候補が決まる。	ガイド手法についての情報収集。
2022	展示室においてテストが行われ、実現性や課題が明らかになる。	ガイド手法の試行。
2023	新しい手法によるガイドの内容が検証され、より拡大した使い方の検討が行えるようになる。	新しい方法に合わせた常設展示解説の内容について内部で検討、さらに追加・拡大の計画を策定作成と配置開始。
2024	設置済みの音声ガイドについて効果測定に基づく改良と解説項目の増加が進む。	アプリを使用する定点の展示解説(番号つき)について、使用言語の増設および解説内容の追加を行う。アプリを使わずに利用できる音声ガイドの追加を検討し、展示室内の数箇所では試験的に導入、検証を行う。 <del>展示解説の作成と配置開始、および解説の追加・改良、小規模な効果の検証(評価)。</del>
2025	常設展示室の展示の大半に解説がつき、アクセシビリティが向上する。	検証に基づいて、解説の追加、改良。利用者による評価を実施する。

\*コメント:2023年度より「ポケット学芸員」を主な音声ガイドとしたため、次の段階として日本語以外の言語を増やして利便性を高めることを重視した。また、定点の展示解説以外に、アプリを使わずにQRコードなどで読み取れる解説(音声ガイドとしての機能も持たせたもの)の増設も検討し、試験的な導入の後で本格的な活用を目指す。

##### 4-2. 「観る」展示から「観る+使う」展示への成長

- ・5年間の事業：展示室から現場の情報にアクセスすることでより展示を楽しむ仕組みを、インターネットの利用により実現する。外部から展示室を利用する方法については重点事業5-1で展開し、6年目以降に両者を活かしたプログラム作りを進める。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	方法の検討と小規模な試行。	方法の検討と小規模な試行。
2022	展示から現場の情報・より詳しい情報をとりに行く行動を促す仕組みについて情報が得られる。	博物館から現場の情報を取得する仕組みを一部の展示を使って試し、展示室外の情報へのアクセス数などを検証。

2023	展示から現場の情報・より詳しい情報をとりに行く行動を促す仕組みが強化される。	博物館から現場の情報を取得する仕組みを試す範囲を広げると同時に、取得する情報の内容を精査。
2024	展示室から外の情報にアクセスすることでより展示を楽しむ利用方法が来館者に認知されるようになる。	展示室から取得できる情報の内容、案内の設置場所や位置づけを検討し、増設を進める。博物館で構築しているウェブ図鑑、バーチャルミュージアム等のコンテンツも利用する工夫をし、アクセスを容易にする案内等を設置する。 <del>博物館から現場の情報を取得する内容について検証し、必要な情報のブラッシュアップおよび追加を行う。</del>
2025	展示室と現場をつなぐ楽しみ方の認知が広がり、一般に利用されるようになっていく。	展示室から取得できる情報について、内容や利用状況(頻度等)について検証し、増設および更新の方法等を検討する。 <del>仕組みの充実。</del>

\*コメント:この部分は、現行の試験的な設置を発展させ、さらに展示室からの情報取得が容易にできるよう、いろいろなアクセス方法を準備するよう整備を進める。さらに、博物館で別途整備しているウェブ図鑑、さらに収蔵資料等を利用できるバーチャルミュージアムなども活用することにより、博物館らしい学びが展示室においてより深く楽しく体験できる環境を整えること目指す。

#### 4-3. 社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長

・5年間の事業:常設展示の情報の見直しと修正を検討し、予算が削減された状態でも可能な展示更新を実施、今後の大規模更新に備えて準備を行う。

年度	達成する状態(目標)	進めること
2021	C展示・水族展示の更新計画。	C展示・水族展示の更新計画を策定。
2022	C展示・水族展示の小規模な更新。	経常予算でのC展示・水族展示の更新、予算規模に合致した更新計画の見直し。
2023	C展示・水族展示の小規模な更新、C展示・水族展示の大型更新のための予算要求提出。	C展示・水族展示の小規模な更新、予算措置が必要な更新(一部)の予算編成。
2024	水族展示の水槽の再構築(「みんなで作ろう水族展示!」)。 常設展示全体で、研究成果や展示経験を生かした展示内容の更新および機器類の更新を実施。 <del>C展示・水族展示の更新の一部実現。</del> <del>A展示・B展示の更新計画。</del>	水族展示の破損水槽を含めた大規模修繕を実施。C展示における展示の不具合解消等を含めた更新計画を可能な範囲で実施し、予算措置が必要なものを精査して予算編成・要求を行う。 A展示・B展示の中規模更新計画を準備する。 <del>C展示・水族展示の大型更新(一部)の実施、A展示・B展示の更新計画を策定。</del>
2025	C展示・水族展示の中規模更新の一部実現、 <del>A展示・B展示の更新の一部実現。</del> <del>A展示・B展示の大型更新計画を策定のため</del>	C展示・水族展示のある程度の予算措置を伴う中規模の大型更新(展示内容、展示手法、機器類一部)の実施。経常予算でのA展・B展の更

	<del>めの予算要求提出。</del>	新。 A展示・B展示の予算措置が必要な更新の予算 編成。
--	----------------------	------------------------------------

\*コメント:2022 年度末に水族展示室の水槽破損が発生したため、実質的に 2023 年度の目標達成が困難になった。また老朽化した設備、機器類の破損も相次ぎ、展示内容の継続等について検討が必要になったため、年次計画を実質的に1年ずつ延期する。全体として、大規模更新というのはこれまでの予算のつき方から考えても現実的ではないと思うので、少し控えめな表現にした。もし、それなりの予算措置を伴う展示更新の計画を、今期の「中長期計画」に入れ込むなら、練り直しが必要。

### 【事業目標5】より多くの人利用する博物館へ

- ・実施目標：ICTを活用し「世界」を見据えた広報を展開して、より多くの人利用を実現します。  
また、双方向の広報によって常に博物館の社会的評価を情報収集し、博物館の魅力向上に役立てます。
- ・評価指標：館内および館外からも利用がしやすくなり利用が増える。

#### 5-1. ICTを活用した琵琶湖の魅力とその入口としての博物館の紹介

- ・5年間の事業：ウェブサイト「もう一つの琵琶湖博物館」(バーチャルミュージアム)と位置づけ、サイトだけでも琵琶湖(湖と人間)について学べるように情報を発信する。また、展示室のようすや展示解説も掲載し、疑似的な来館を実現する。最初の5年間は枠組みづくりを中心に進める。

年度	達成する状態(目標)	進めること
2021	発信計画の素案ができる。 ウェブサイト改良の第一段階が終了。 展示紹介動画ができ、公開される。	発信計画の検討。 ウェブサイト再編成(サイト統合)。 博物館紹介動画(展示概要)作成。 ウェブサイト再構成。博物館紹介動画作成。
2022	地域の人の発表した内容が公開される。	びわ博フェスでの発表内容紹介ページの作成。 研究発信解説ページの作成。
2023	琵琶湖の概要情報の発信ページできる。 博物館で新たに明らかになったことがわかりやすく発信される。	各ページのコンテンツ作成、掲載開始。 琵琶湖紹介ページ動画の計画。アクセス解析を実施。
2024	アクセス解析により、アクセスを増やすためのルート改善が進む。	アクセス解析およびページの改良。 コンテンツ掲載継続。琵琶湖紹介ページ動画作成。
2025	ウェブサイト上で「湖と人間」について学べるようになっている。 琵琶湖博物館の疑似的な来館が可能になっている。	発信計画のみなおし。 琵琶湖紹介ページ動画アップ。 アクセス解析。

\*コメント：業務量との関係から編集が大変な動画制作ではなく、ページでの表示を中心に制作を検討する。可能であれば動画制作を実施。

#### 5-2. 双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映

- ・5年間の事業：琵琶湖博物館の社会貢献を測定し、事業に活かせるような仕組みを運営できる組織体制を確立する。

年度	達成する状態(目標)	進めること
2021	博物館の状況を客観的に評価するための手法、目的や指標の検討を行う。	調査・評価方針の検討。
2022	博物館の状況を客観的に評価するための調査・評価手法を選定する。	調査・評価方針の検討。

2023	来館状況などの変化や傾向を理解し、展示利用の来館者の傾向を把握する。	過去のアンケート調査結果の見直し調査。 予算を伴わない調査・評価方法の検討。
2024	展示以外の事業についての部分的な評価が理解され、その改善方針が検討される。	展示以外の利用についての調査・評価方法の検討と一部実施。 <b>学校等団体の利用に関するヒアリング解析</b> 。結果から改善について検討。
2025	博物館の状況を客観的に示せる。	評価の実施と改善の検討。開館30周年に向けて来館者動向の変化解析。

\*コメント:企業等にアンケートを採ってみれば?との意見をうけ、学校や企業等団体への利用についてのヒアリングのまとめを行って解析を検討する。

### 5-3. 来館しやすい環境の整備

- ・5年間の事業：予約システムによる来館者の分散は2020・21年度実績より現実的でない判断。キャッシュレス・チケットレス環境は前倒しの整備となったため、2022年度をもって**導入完了終了予定**。ほかに想定される、多言語対応やユニバーサルデザインの推進は事業目標4にて実施する。公共交通機関の充実については、前中長期計画の取組結果より、期間を区切って結果を達成するのは極めて困難と判断し、継続的に模索するものの、重点事業化はしない。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021		予約システムの活用方法の検討。 キャッシュレス・チケットレスの導入。
2022	キャッシュレス・チケットレス導入による利便性の向上。	利用実績に基づくキャッシュレス・チケットレスの対象会社の拡張。
2023	駐車場から博物館への道について修正方針が定まる。	駐車場から博物館までの道について、来館しやすい道への修正の検討。 博物館にとっての来館しやすい環境とはなにかの議論。
2024	来館しやすい環境のソフト面について一部が改善される。	<b>駐車場から博物館までの誘導についての改良。</b> 来館しやすい環境としてソフト面で改善方法の議論と実施。
2025		

\*コメント:懸案になっている駐車場から博物館までの誘導方法について、改良する計画を追加。2025年の計画と目標ができていないことが課題であるが、2026年度以降の計画と合わせて検討をしていきたい。

### 【事業目標6】博物館の活動を安定して継続する

- ・実施目標：老朽化した施設の改修や、災害に強い体制の確立を進めるとともに、活動基盤の安定のために、さまざまな支援を受ける仕組みづくりを進めます。
- ・評価指標：安心感がある場所で安定的に継続した活動ができる。

#### 6-1. 老朽化した施設の改修と災害への備え

- ・5年間の事業：「災害に強い」を重視し、災害に耐えられるような資料の保管環境を実現する改修を優先的に進めるとともに、危機管理体制の見直しを行う。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	改修・危機管理の改善に向けた準備。	改修更新個所の洗い出しと分類。 危機管理項目の頭出しと既存マニュアルの再収集・整理。
2022	改修更新計画。危機管理マニュアル。	建物・施設改修更新計画完成。 危機管理管理マニュアル統合版完成。
2023	施設改修の進捗。危機管理体制整備の進捗。	標本・資料の保管環境整備開始。 危機管理のための体制整備着手、訓練・研修計画作成。 <b>施設整備調査の実施。</b>
2024	施設改修の進捗。危機管理体制整備の進捗。	<b>施設設備修繕計画の検討。</b> 標本・資料の保管環境整備継続。建物関係の改修・更新開始。マニュアルに基づく訓練・研修。
2025	計画に基づいた建物・施設の改修が、優先順位の高い標本・資料の保管環境から進んでいる。危機管理マニュアルが職員に浸透している。	標本・資料の保管環境整備継続。建物関係の改修・更新開始。危機管理マニュアル改訂作業開始。

\*コメント：施設設備の不具合所が多いことから、中長期的な修繕計画が必要である。また、水族展示室の大型水槽破損などを契機に、災害・事故時の対応について再度見直し、再検討が必要と考えた。

#### 6-2. 安定した活動基盤を確保する仕組みづくり

- ・5年間の事業：支援の受入制度の整備と安定化をまず実現する。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021		リニューアル後の博物館支援の受入制度の試行。
2022	びわ博サポーター制度を利用しやすくするための検討が進む。	支援の受入制度の課題の抽出と最適化のための検討。
2023	制度の改善のために必要な行政手続きが進められる。	最適化のための手続きの <b>検討・実施。</b> 企業・団体・個人等の賛同を得られるような資金調達方法の調査・検討。
2024	改良された制度が始まる。	支援の受入制度の <b>見直しと運用開始。</b> <b>期間限定の支援方法を併用して実施。</b>

2025	企業・団体・個人等から支援を受ける仕組みが確立している。	支援の受入制度の運用。
------	------------------------------	-------------

\*コメント:水族展示室の大型水槽破損と、それに伴う水槽の安全性見直しなどから、修繕等のための新たな支援方法について、たとえば 2023 年度はクラウドファンディングを実施中である。このような、ある目的のための期間限定の支援制度を確立に向けた検討を実施していく必要性がある。